

# OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学报 第253号 2017年7月15日

OCHADAI GAZETTE Summer, 2017



## 失敗を恐れずチャレンジする勇気を持って

### CONTENTS

#### TOPICS

平成29年度 入学式 ..... 1-2 学長告辞	キャンパス点描..... 9-10
学生のアクティビティ..... 3-4	● Pasco×お茶の水女子大学 健康教室を 開催しました
教員紹介..... 5	● お茶の水女子大学と産業技術総合研究所が 包括協定を締結しました
● 河野 能知先生 (お茶大アカデミック・プロダクション)	● みがかずば奨学金授与式及び 学部生成績優秀者奨学金授与式を挙
卒業生紹介 ..... 6	● 桜蔭会研究奨励賞・大学院博士後期課程研究奨励賞・ 錦織チサ工奨学金授与式を挙
● 内山 麗子さん (生活科学部 人間生活学科卒業)	
附属学校園からのお知らせ..... 7-8	



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University



# 平成29年度 入学式

## 学長告辞



513名の新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。  
お茶の水女子大学の教職員を代表致しまして、心からお祝い申し上げます。

会場には、ご家族やご関係の皆さまにも多数ご出席頂いて居ります。お嬢さま方が晴れて大学生になられるまでを支えて来られた皆さまにも、謹んでお慶びと御礼を申し上げます。

また、ご来賓の皆様には、お忙しい中、ご臨席を賜りまして、まことに有難うございます。どうぞ、これからも、若い学生さんたちの将来を温かくお見守り下さいますよう、お願い申し上げます。

皆さまがご参集下さっているこの講堂は「徽音堂」と名付けられています。「徽音」とは、中国の『詩経』に見られることばで、「先人の美德を受け継ぎ、徳行を重ねた」という周の時代の故事に由来します。「徽」は「美しい」、「音」は「声」を意味し、「徽音」すなわち「美しい声」は「美德」をたとえたものです。本学に集う人々が美德ある人として育つことを願って、本学のシンボルでもあるこの講堂の竣工の折に、「徽音堂」と名付けられました。皆さまは、今日、「徽音堂」で大学生活の一步を踏み出し、4年後には、「徽音堂」で卒業の日を迎えることになります。先人たちがそうであったように、4年間の学びを通じて、美德ある人として育てて頂きたいと願って居ります。

本日徽音堂には、国境を越えてお茶の水女子大学に学びの場を求めて来られた方々への歓迎の気持ちを込めて、日本の国旗や本学の校旗と共に、留学生の方々のお国の国旗を掲げています。今年は、これらの国旗からお分り頂けるように、学部と大学院を合わせて、中国、韓国、台湾、ベトナム、モンゴル、タイ、ロシア、シンガポール、エジプト、アフガニスタン、英国の11カ国からの留学生をお迎えしています。

留学生の皆さまにとって、故国を遠く離れた日本での生活は、楽なものではないでしょう。言葉や習慣、文化や価値観の違い、

また生活や考え方の違いに、戸惑われることもあると思います。困ったときや迷ったときには、いつでも、教職員や、先輩、同級生に声を掛けて、相談して下さい。

これからの4年間、学ぶ意欲を持ち続け、真摯に学びに向き合って、無事にこの徽音堂で、卒業の日を迎えて頂きたいと願っています。

新入生の皆さまは、これまでに様々な環境で多くの方々からの支援を受け、またいろいろなことを経験しつつ、日々成長を重ねて来られましたね。

そして、本日から始まる大学生活では、これまでとは大きく異なる世界に足を踏み出すこととなります。

皆さまの多くは、高等学校までは、一定の枠の中での学びを経験して来られたのだらうと思います。でも、大学生になった皆さまには、これまでに経験して来られた学びの外側に、果てなく広がる学問の世界があることに、一日も早く気付いて頂きたいと思います。そして、外から与えられるものを待っているのではなく、自ら進んで学び、探究する姿勢を身に付けて頂きたいと思っています。

広く豊かな学問の世界に身を置いた時、自然の中に潜む多様な営みのメカニズムの素晴らしさや法則の美しさを知ることが出来るでしょうし、人々が創造してきた文化の豊かさに感動することもあると思います。

また、学問が、常にダイナミックに変化し、発展していることを知ることも出来るでしょう。その学問のうねりの中に身を置くことで、それまでの自分自身を縛っていた枠を外して、豊かな知識と知的好奇心に裏付けられた論理の進め方を身に付けることもできると思います。そして、広く多様な視点から物事を見たり、考えたりすることによって、独創的な発見や理論が生まれるかも知れません。皆さまの前にあるのは、そんなウキウキする学問の世界です。

また、大学生活を送る中で、皆さまの世界は、社会的にも大きく広がるでしょう。多様な国や地域で生まれ育ち、異なる能力や経験をもった友人たちとの出会いや、大学の外での活動の広がり

も、皆さまに豊かな成長の場を与えます。素晴らしい友人たちを得て、知的な活動や社会的な活動に、自主的、積極的に関わって頂きたいと願っています。





本学は、ご存知のように、初の女性のための官立の高等教育機関「東京女子師範学校」として、1875年（明治8年）に文京区の「御茶ノ水」の地に開設されました。その後、教育制度の変遷に伴って、東京師範学校女子部、高等師範学校女子部、女子高等師範学校、東京女子高等師範学校と組織と名称の変更を経て、1949年（昭和24年）に、新制大学へと移行しました。

新制大学に移行した際には、長く愛称として親しまれていた「お茶の水」を大学の名称とし、多くの先駆的な女子学生たちを迎えて、女性たちの社会進出が困難な時代から、一貫して「教養と専門性を備えた女性リーダーの育成」をミッションとして、優秀な女性人材を育ててきました。

本学の卒業生たちは、優れた教育者、科学者・技術者として育ち、また様々な領域で社会基盤の充実に寄与する人材として、女性の自立と社会的活躍を先導してきました。

また本学は、2002年から開始したアフガニスタンからの留学生受け入れや教員研修を端緒に、『学ぶ意欲のある全ての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する』との標語を掲げ、学びたくても学ぶことのできない開発途上国の女性たちをも含めて、世界中の全ての女性たちの夢の実現を支援することを目指して来ました。若い女性たちが、多様な文化と異なる価値観や考え方を持った人々と深く理解しあい、互いに切磋琢磨しながら自らを成長させていく環境を整えるために、現在24カ国71大学との交流協定を結んでいます。

ボーダーレス化し、予測不能な世界では、好むと好まざるにかかわらず、これまで以上に、急速かつ大規模に進む社会の変化にさらされていくこととなります。そして、次世代を担う若い方々には、国の枠組みを超えて対話と実践を重ね、多様な世界の人たちとのつながりを深めて信頼関係を築いていくことが求められます。

そういった社会に於いては、皆さまが将来どのような道を選択するにせよ、高い専門性の修得はもちろん重要ですが、それと共に、自分の専門分野に閉じこもるのではなく、深い見識に基づいて論理を組み立てていく総合的な知力が求められます。

本学では、その総合知の基礎となる「リベラルアーツ」、総合知を支える「思考力と判断力」、そして総合知の共有化を進めるための「コミュニケーション力」を習得するためのカリキュラムを用意し、学びの場を提供しています。

これから皆さまも、お茶の水女子大学の一員となられるわけですが、新たな場で、新たなこ



とに取り組んでいく時には、様々な困難が伴うことも予想されます。でも、困難を乗り越えるたびに、人は磨かれて、成長します。それが、自分でも気付かなかった能力や可能性に気付く機会ともなります。

既に踏みならされた安易な道を選ぶのではなく、時には、まだ誰も踏み込んだことのない道を選択する勇気を持って頂きたいと思います。失敗を恐れず、何事にもチャレンジする勇気を持って、大学生時代という貴重で贅沢な時間を有効活用して下さい。それが、未来を切り拓き、自分自身の可能性を思い切り花開かせる事につながります。そして、社会に貢献する成果にも結びつくでしょう。

本学の校歌「みがかずば」にありますように、自分自身を磨き、それぞれの夢を実現させて頂きたいと願っています。

皆さまの先輩たちは、学問に情熱を傾けると同時に、東日本大震災などの大規模災害で被災された方々や、保護者を失った子ども達、一人暮らしのご老人など、社会的に弱い立場にある方々を支援するためのボランティア活動に参加したり、それぞれの趣味を活かして新たな友人を作るためのサークル活動に参加するなど、様々な課外活動にも熱心に取り組んでいます。

本日入学された皆さまが、お茶の水女子大学で充実した学生生活を過ごされ、日本と世界の希望溢れる未来を創造することのできる優れた女性として成長されることを願っています。

こころとからだの健康を大切に、学園生活を思い切り楽しんで下さい。本学の教職員たちは、皆さまの健やかな成長を、心から応援しています。

本日、お茶の水女子大学に入学された513名の皆さまとご家族、ご関係の皆さま方に、今一度心からのお祝いを申し上げ、これからの実り多い大学生活をお祈りして、お祝いの言葉を結びます。

改めまして、ご入学、まことにおめでとうございます。

2017年4月4日

お茶の水女子大学長 室伏 きみ子



平成29年度 入学式



# 学生のアクティビティ

お茶の水女子大学では、授業や研究以外でも自身を成長させることができる機会がたくさんあります。今回はサークル活動 (Ochas) とお茶大 SCC に焦点を当てて、その活動をご紹介します。



Ochas (オチャス) は、お茶の水女子大の学生有志による大学公認サークルです。2006年、当時3年生だった食物栄養学科1期生が「授業で学習したことを生かしたい」という思いからこのサークルを立ち上げ、今年で12年目を迎えます。「食べる幸せを広げる」という理念のもと、食に関する正しい知識の発信や商品開発、食育等の活動を行っています。所属人数は約120名、大学内外での活動により、現在では認知度の高いサークルとなりました。

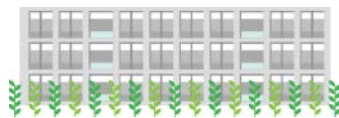
昨年11月5日(土)～6日(日)に、東京丸の内で開催された「ジャパンハーヴェスト2016」に参加しました。これは農林水産省によって開催され、日本の農業や農林水産物、食文化等を学ぶ企画が盛り込まれたイベントです。Ochasからは、鹿児島県の株式会社下堂園と共同開発したレシピ茶4種と、文京区の株式会社不二家と共同開発したバウムクーヘンを販売しました。いずれもOchasメンバーがコンセプトやレシピ・配合を考案し

た商品で、バウムクーヘンは、文京区地域ブランド創出支援事業として認定された商品です。スーパー等ではあまり見かけることのないレシピ茶、可愛らしい3色のバウムクーヘンに目を止めた沢山のお客様がOchasのテントにお越しくださいました。丸の内という場所もあって外国人の方や、子どもからご年配の方まで幅広い年齢層の方がいらしゃったため、どう話せば興味をもってもらえるか、おいさを伝えることができるか、試行錯誤でした。お客様で大学やOchasについてそれまで知らなかった方々にも商品を知っていただけたこと、つまり「食べる幸せ」を一歩外に届けられたことを、嬉しく思います。

Ochasのこうした活動は、商品開発に協力してくださっている企業、大学職員の方、先生方や先輩方、そして商品を手にとってくださるお客様の支えによって成り立っています。まだまだ未熟な私たちですが、「食べる幸せ」を社会に向けて発信するため、今後も活動に取り組んでいきます。







お茶大SCC (Student Community Commons) は「ともに住まい、ともに成長する」をコンセプトとした、ルームシェア型の学生寮です。平成 23 年度に開寮し、今年で 7 年目を迎えました。入寮対象は学部 1・2 年生で、入寮期間は 2 年間です。学年・学部・学科の異なる 5 人で「ハウス」を形成し、共同生活を行っています。コミュニケーション力や協調性を育む多彩な学生支援プログラムも準備されており、学内外からも注目されています。



SCC ハウスリビング



入寮日ごはん会



学修プログラム発表会



前期ふりかえりワークショップ



寮祭

## SCC の 1 年間 (2017 年度)

- 4月
  - ・入寮日ごはん会
  - ・ウェルカムパーティー
  - ・第 1 回学修プログラム講演会
- 5月
  - ・自主企画 SCC 交流会
  - ・第 1 回学修プログラム 発表会
  - ・清掃ワークショップ
  - ・1 年生ワークショップ
- 7月
  - ・第 2 回学修プログラム 発表会
  - ・自主企画 セタイベント
  - ・夏季大掃除
  - ・学部オープンキャンパス SCC 紹介
  - ・前期ふりかえりワークショップ
- 10月
  - ・後期キックオフワークショップ
  - ・自主企画 運動会
  - ・SCC 寮祭
- 11月
  - ・第 3 回学修プログラム
  - ・1 年生ワークショップ
  - ・SCC ホームカミングデー
- 12月
  - ・冬季大掃除
  - ・自主企画 クリスマス会
- 1月
  - ・自主企画 新年会
  - ・年度末大掃除
- 2月
  - ・新 2 年生研修
- 3月
  - ・修了式
  - ・さよならパーティー
  - ・居室替え

入寮日に 2 年生と RA\* がごはんをつくって 1 年生をもてなします。入寮当日は誰にとっても不安なもの。入学式より一足先に、寮生との交流ができる機会です。

\*RA (レジデント・アシスタント): 2 年間の在寮経験のある 3 年生が下級生のサポートのために共に生活しています。

学修プログラムは、お茶大の先生が SCC に出向いて講演をしてくださるもので、年に 3 回程度実施しています。講演会のあとはハウスで課題に取り組み学びを深めています。昨年は学長の講話の他に、食物栄養学科の先生と人間・環境科学科の先生にお越しいただきご講演をお願いしました。

SCC ではチームづくりのためのワークショップを年に数回実施しています。ワークショップはなごやかな雰囲気で行われ、寮生同士の交流も深まります。

寮祭では、ハウスごとに工夫を凝らした企画でおもてなしをします。寮生だけでなく保護者の方や学内の先生方、SCC の OG、また本学受験予定の女子高生の方もご招待しています。今年も 10 月下旬に行いますので、ぜひお越しください!

※申込み詳細は SCC のホームページをご確認ください。

## SCC に入ってよかったこと



自主企画 運動会

ハウスが一緒の人とは、他の友達とはまた違った良い関係になれること。(生活科学部 2 年)

入学前から友達や先輩と知り合うことができ、先輩方が開いてくださる様々なイベントでは、1 人では解決できないことや発見できないことを得ることができます。(生活科学部 1 年)

大学だけの時間しか過ごしてない友達より、長い時間を一緒に過ごすので深い知り合いになります。地方から出てきて東京に家族がいるみたいになるのは心強いです。(文教育学部 2 年)

5 人で暮らすことで共同生活の大変さや楽しさを学ぶことができます。違う学科や学年の人とも仲良くなり毎日がとても充実しています。(文教育学部 1 年)

SCC では、入寮後一人一人に役割が与えられて、各委員会に所属し、寮の運営に貢献しています。自身の考えを企画、実施や行動に移せるという意味で、成長できる寮だと感じています。(理学部 2 年)



## 学生のアクティビティ

※お茶大 SCC ホームページ

[http://www.cf.ocha.ac.jp/student\\_support/j/menu/scc/j/top.html](http://www.cf.ocha.ac.jp/student_support/j/menu/scc/j/top.html)

# 教員紹介

今回は、お茶大アカデミック・プロダクション助教の河野能知先生をご紹介します。  
河野先生は大学院では理学専攻物理科学コース、学部では理学部物理学科とも連携して  
教育・研究を行っています。



*Kono Takanori*  
**河野 能知**

## 先端技術を駆使して 自然の成り立ちに迫る

### Q ご出身、ご経歴などについて教えてください。

生まれたのは川崎ですが、子どもの頃は何度か引っ越しをして、アメリカや日本の田舎で過ごしたこともありました。高校まではそれぞれ地元で公立の学校に通っていました。東京大学の理学部物理学科から大学院に進学して修了するまでは日本で勉強や研究をしましたが、その後はイギリス、スイスとドイツの大学や研究所で研究員として働き、2013年に本学に着任しました。

### Q 先生のご専門の研究領域のお話を聞かせて下さい。

素粒子物理の実験を専門としています。あらゆる物質が原子に分解できるということは皆さんご存知かと思います。それから、その原子の構成要素である電子や陽子・中性子という単語も聞いたことがあるかと思います。このように物質を細かくして現れる基本的な構成要素の間で成り立つ法則を調べるのが素粒子物理ですが、最近では何故このような粒子が存在するのかという自然界の成り立ちの仕組みそのものを理解したいという動機から研究が進んでいます。

陽子よりも細かい構造を調べていくと陽子、中性子や電子を細かくした粒子というよりも、それらと非常に性質がよく似ているけど違う粒子というものがたくさん存在することが分かってきました。そのような粒子が何100種類も発見されていますが、ほとんどのものは不安定で最終的に安定な粒子に崩壊してしまいます。

また、粒子同士がお互いにどのように相互作用しているかという点については、よく知られている力に電磁気力と重力というものがありますが、陽子や中性子はこれらの力よりも圧倒的に強い力で結合していることが分かっています。

この力を強い核力と呼んでいますが、核力の及ぶ範囲は陽子の大きさ程度(1兆分の1ミリメートル)で、普段感じることはありません。そして、電磁気力や核力を伝える役目を担っているのも実は粒子で、実験的に観測もされています。

このように、粒子の中を詳しく調べていくと、それまで意識することの無かった新しい粒子や力の存在が見えてきます。物質を細かく分解して単純になっていくと思ったら、ミクロの世界に独自の法則が成り立っている世界が広がっていたわけです。

私は、このような素粒子の世界で起こる現象を調べるために加速器という装置を使った実験を行っています。現代の素粒子実験は大型化していて、私が参加している国際共同実験アトラスで使う測定器は高さ約25メートル、長さ約40メートルもの大きさになります。実験グループ自体も38ヶ国から約3,000人の研究者が集まっていて、測定器の設計や建設、システム全体の運転、データの収集と解析を分担しながら行っています。実験では微細な構造を持つセンサーを1億個くらい使って素粒子反応を記録して、そのデータをコンピュータで解析するのですが、そのためには実験条件、検出器の原理、効率的なアルゴリズムの開発等、様々な知識や技術が要求されます。そして、それらを総合して論理的に素粒子反応を再現してみせる必要があります。この一連の流れがやっているととてもおもしろいです。次から次に課題に直面して、それを一緒にやっている研究者と議論しながら解決していきます。今は主に検出器開発を行っています。最新技術を取り入れてより感度の高い測定を目指しています。

### Q 先生が現在のご研究を専門にするようになった経緯を教えてください。

昔から漠然と研究したいという気持ちはあり

ましたが、どちらかというと理学部よりも工学部よりのものをイメージしていました。大学に入って量子力学や相対性理論を本格的に勉強して20世紀以降の物理学の発展に触れてからは自然の法則そのものを研究したいと思うようになりました。理論的な研究も考えましたが、様々な技術を駆使して実験手法の設計からデータ解析までを行って、理論から導かれる予言を検証できるという点に魅力を感じて素粒子実験の道を選びました。

大学院では素粒子実験を行っている研究室が複数ありましたが、その中からドイツ・ハンブルクにある研究所で電子・陽子衝突実験を行っている研究室を選びました。大学院生の時は検出器の仕事やチャーム粒子の生成過程を測定して論文にまとめました。当時から日本とドイツを往復しながら海外の研究者や学生と一緒に研究することも多かったです。そのため大学院修了後は自然と海外の大学で研究を続けることが選択肢としてありました。ヨーロッパは博士号を取って間もない若手研究者のポストが多く、同世代の研究者が周りに多くいる環境で研究に専念できたことは非常に良い経験でした。そんな中で、研究は一人で黙々とやるものではなく、いろんな人と議論しながら進めるものだというを実感できたことは大きかったです。

### Q お茶大の印象やお茶大生に向けてのメッセージをお聞かせ下さい。

学生の数が比較的少ないので学生を一人ひとり認識できる点は、教える側・教わる側双方にとってメリットではないかと思います。実験の授業で担当した学生や研究室に興味をもってくれた学生とは物理全般について話す機会があります。授業ではどうしても科目ごとに勉強しますが、物理では異なる分野が実は関連していたり統一的な視点から理解できたりということがよくあります。そのような物理の醍醐味を味わってもらうためにも、学生の皆さんには興味をもったことは、積極的に周りの人に聞いたり自分のアイディアを話したりして欲しいです。私自身もそのための手伝いをできれば幸いです。

文責：基幹研究院自然科学系教授 森 義仁



## 非行少年と向き合っ て ～心理学の学びを活かした仕事～



Uchiyama Reiko  
内山 麗子

家庭裁判所調査官

群馬県出身

2003年3月 お茶の水女子大学 生活科学部 人間生活学科  
発達臨床心理学講座卒業

・東京、新潟、小田原の家庭裁判所を経て、現在、横浜家庭裁判所に勤務

### 家庭裁判所調査官という仕事

家庭裁判所は、夫婦や親族間の争いなど家庭に関する問題を調停や審判などで解決するほか、非行をした少年についての処分を決定する少年審判を行なっています。私たち家庭裁判所調査官はその中で心理学、社会学、社会福祉学、教育学といった行動科学の専門的な知識や技法を活用して、家庭内の紛争の解決や非行少年の立ち直りに向けた調査活動を行なっています。

家庭裁判所調査官の担当には家事係と少年係があり、現在は少年係として働いています。非行をして警察から家庭裁判所におくられてきた少年に実際に会い、なぜ非行をしてしまったのか原因を分析するため、今までの生い立ちや家族関係、友人関係、学校生活など、その少年を取り巻くあらゆる話を聞きます。少年の保護者にも会うほか、場合によっては教師、職場の雇用主などにも話を聞いたりして、最終的にその少年が立ち直るためにはどういう手当てが必要かを考え、裁判官に対して処分に関する意見を書面にまとめて提出します。

家庭裁判所調査官は全国に1500名ほどいますが、裁判所職員の中では少数派です。全国各地の家庭裁判所に配属されるので、転勤の多い仕事といえます。私も東京の後に新潟へ勤務し、その後小田原、横浜と3度の異動を経験しました。しかし異動の希望を出すこともでき、産休・育休や育児に関する制度も整っています。私もこれまで2度の育休を取得しました。育児をしながら活躍している先輩が多くいますし、女性も働きやすい職場だと感じています。

### この職業を目指したきっかけ、 在学中の学び

最初は、漫画やテレビドラマで家庭裁判所調査官という職業を知り、大学で学んでいた心理学を活かせる仕事として興味をもちました。その後、小学校の教職課程の実習で児童自立支援施設に行き、そこで非行少年といわ

れる子どもや彼らの置かれている状況に触れて、少年たちの立ち直りに関わりたいという思いを強く抱くようになりました。大学4年生の時には、犯罪・非行臨床心理学が専門の藤田宗和先生のゼミに所属し、先生から非行少年に関わる現場の話をつかがい、心理学の学びを深めていきました。

大学では心理学を専攻しましたが、家庭裁判所調査官として働くためには、法律の知識も不可欠です。法律の専門的な知識は、採用試験に合格した後、裁判所職員総合研修所での2年間の研修やその後の実務を通して身につけていきました。法律を初めて学ぶ戸惑いもありましたが、大学で学んだ心理学の知識や在学中の経験が自信になり、家庭裁判所調査官としての専門性の獲得につながっていったと思います。

### 仕事のやりがい、転勤先での出会い

さまざまな境遇の非行少年がいる中で、非行の原因や再非行の防止を考え、試行錯誤する毎日です。中には、なかなか話をしてくれない子、自らの経験や感情をうまく言葉にできない子もいて苦労します。少年たちは、表す態度はさまざまですが、みんな自分がこれからどうなってしまおうだろうという不安を抱えているので、なるべく丁寧に話を聞くことを心がけ、信頼関係を築けるよう努めています。話をきいてもらえる体験に少年たちが喜びを感じてくれた時や、私と話のやりとりをする中で、少年が自分の抱えている問題に気づき、それを解決しようと前向きな気持ちになってもらった時などに、この仕事をしていてよかったなとやりがいを感じます。

また、転勤が多い職業柄、いろいろな地域に赴任するのですが、その土地での新たな出会いや発見が楽しみだったりします。新潟に転勤が決まった時には、天候や生活習慣など不安もありましたが、仕事や生活を通じて、地域独特の家族観や少年たちの行動、その土地の文化を知ることができました。雪国の寒さを乗り切るために厚手のダウンコートやス

ノーブーツを購入したり、移動のために車を運転したり、土地に合わせた生活をしました。職場の同僚と市内の祭りに参加したり、スキーや佐渡島へ旅行に行ったりしたことは良い思い出です。転勤は生活の変化や新たな出会いを提供してくれるので、それを楽しむようになっています。それから仕事をしていると、お茶大出身の先輩や後輩の家庭裁判所調査官と出会うこともあって、うれしくなります。皆さん生き生きとお仕事をされています。

仕事をしていると次々と課題が出てきて、いつまでも学びは尽きません。専門知識や面接技法などについて職場で研鑽の機会が多くあるほか、心理テストは大学で学んだことを続け、仕事で用いながら知識を深めています。また、様々な人と会って話をする仕事なので、大学の講義や実習で得た知識だけでなく、在学中のアルバイトの経験やサークル活動、読んだ本、見た映画、旅行に行つてひろげた知見などあらゆる事柄が今の仕事に役立っていると感じます。お茶大生のみなさんにも、学生のうちにしかできないことをいろいろ体験し、卒業してからもその時々状況に合わせて学び続ける姿勢をもち、社会で活躍してほしいと思っています。

文責：基幹研究院人文科学系准教授  
難波 知子

### わたしのオフタイム

体を動かすことが好きで、大学時代はテニスのサークルに入っていました。就職後も同僚とテニスをしたり、フルマラソンにも挑戦したりしました。出産後は、子どもと遊んで体を動かしたり、朝ヨガをしたりしています。スポーツや運動を通してのコミュニケーションが、良好な人間関係や心身の健康保持につながっています。



# 附属学校園からのお知らせ

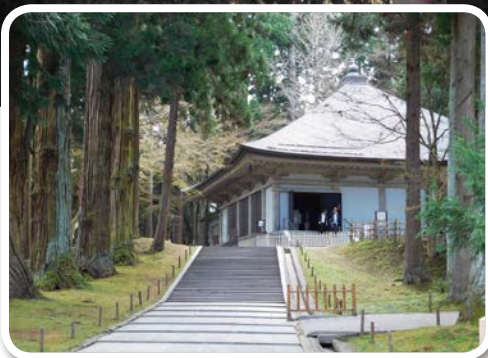
## 附属中学校便り



鹿踊り



ビジュアルレポート



中尊寺

高館にて「奥の細道」朗唱

附属中学校では、2012年から二泊三日の岩手修学旅行を行っています。今年度は4月19～21日に実施しましたが、活動と学習の様子を生徒の記録と感想と共にご紹介致します。

1日目は世界遺産平泉を訪問し、満開の桜を愛でつつ、中尊寺、毛越寺、高館、平泉文化遺産センターを見学して奥州藤原氏の歴史をたどりました。花巻のわたり温泉に宿泊し、震災関連ワークショップや伝統芸能鑑賞をしました。花巻では、宮澤賢治記念館などを見学する年度もあります。

「写真でしか見たことのない世界遺産を実際に訪れました。金色堂では柱などに螺鈿細工などの装飾が施され、細かいところまで工夫されていることが印象的でした。これらの装飾を手作業で行っていたことを知り、当時の技術の素晴らしさを学ぶことができました。」「高館では北上川を見下ろしながら、松尾芭蕉の『奥の細道』を皆で朗読しました。約三百年前にここを訪れたときの芭蕉の気持ち、義経や弁慶の活躍と最期を想像することができました。」「震災ワークショップでは実際に起こるかもしれない災害を想定し、学習班で話し合いました。首都圏で暮らしている私たちにもいつ起こるか分からない災害。災害が起こったとき、どう対処するべきかを様々なシチュエーションに分け、皆で真剣に考えていきました。」「鹿踊りは鹿の頭を模したものをかぶり、太鼓を鳴らしながら鹿の動きを表現する伝統芸能です。初めて鹿踊りを見た人がほとんどでしたが、実際に間近で見るととても迫力があって、印象的な踊りでした。」

2日目は短い時間ではありましたが、震災学習として釜石を訪問しました。釜石は、2015年明治日本の産業革命遺産の一つに登録され、2019年ラグビーワールドカップ開催地にもなり、復興工事が進んでいます。事前学習で観た津波襲来時の映像や、釜石の子供たちが自ら判断して逃げたドキュメンタリーを想起こしながら、実際に避難道を歩いてボランティア・ガイドの方のお話を伺ったり、被災した旅館の女将さんの体験を伺ったりしました。また、支援のためにつくられたイベント会場(釜石PIT)にて、仮設住宅を彩るためのマグネット・プロジェクトに参加し、事前に生徒一人ひとりが制作した作品を会場に貼りました。

「トラックや工事車両が多く見られる中、避難道を歩いたり、実際に津波に飲まれたものの助かった方のお話を聞いたり、被害の大きかった鶴住居地区を訪れたりしました。地震、そして津波の脅威を改めて実感しました。」「実際に震災を体験した人から話が聞けて、すごく良い体験だった。まだまだ復興が足りないと思うとこれからも支援していきたいと思った。PITで自分のマグネットが貼られていたのがすごくうれしかった。」



釜石避難道にて ボランティア・ガイドさんのお話



マグネットプロジェクトに参加



## 附属学校園での出来事 (2017年4月～6月)

### 【いづみナーサリー】

#### 4月

- 新年度保育開始
- 避難訓練

#### 5月

- 保護者会
- 保育参観
- いづみナーサリーの日

#### 6月

- 災害伝言ダイヤル試行
- 教育後援会総会
- 避難訓練(地震)
- 個人面談
- いづみナーサリーの日

### 【附属幼稚園】

#### 4月

- 1学期始業式
- 入園式
- 保護者全体会
- 避難訓練
- PTA総会
- 5歳児遠足
- 4歳児親子で遊ぶ日
- 同窓会ちぐさ会 第19回ホームカミングデー
- 誕生会

#### 5月

- 子どもの日の集い
- 健康診断
- 親子遠足(新宿御苑)
- 避難訓練(引き取り訓練)
- 誕生会
- 教育実習開始

#### 6月

- 5歳親子で遊ぶ日
- 誕生会
- 避難訓練
- 4歳児・5歳児親子ジャガイモ掘り
- 3歳児親子で遊ぶ日
- 公開保育研究会

### 【附属小学校】

#### 4月

- 入学式
- 始業式・離任式・着任式
- 各学年保護者会
- 親子活動(1年)
- 校外学習(各学年)
- 委員会活動(5・6年)開始
- 避難訓練
- 全国学力学習状況調査(6年)
- かがみ会合同委員会
- 健康診断
- 新入生を迎える会
- 通学班別会

#### 5月

- 授業参観
- 保護者総会
- 教育後援会総会
- かがみ会総会
- 避難訓練
- 郊外園活動(サツマイモ植え3・4年)
- 校外学習(5年:両国国技館)
- 帰国児童教育学級保護者会
- 特別支援講演会(1年保護者対象)
- 教育実習開始
- 運動会

#### 6月

- 校外学習(1年:多摩動物園)
- 校外学習(2年:日和田山)
- 避難訓練、引き取り訓練
- 郊外園活動(ジャガイモ掘り1・6年)
- 校外学習(6年:鎌倉)
- 土曜参観日
- 野外炊飯(4年)

### 【附属中学校】

#### 4月

- 入学式
- 始業式・着任式
- 保護者会
- 1年オリエンテーション
- 3年学力テスト
- 歓迎会
- 任命式
- 避難訓練
- 3年修学旅行(東北方面:花巻・平泉・遠野・釜石)
- 3年全国学力調査

#### 5月

- 健康診断
- 生徒総会
- PTA総会
- 教育後援会総会
- 保護者参観週間
- 1年郊外園(サツマイモ植え付け)
- 体育大会

#### 6月

- 2年理科校外学習
- 1年保護者会

### 【附属高校】

#### 4月

- 入学式
- 始業式・着任式・対面式
- 新入生オリエンテーション
- 新入生防災訓練(池袋防災館)
- 3年修学旅行(沖縄)
- 避難訓練(地震)
- 自治会選挙・歓迎会
- PTA総会
- 教育後援会総会
- 各学年保護者会
- 春季健康診断

#### 5月

- 1年 学年合宿(諏訪方面)
- 2年 SGHフィールドワーク
- 3年 学力テスト
- 1年 農場実習(サツマイモ植え付け)
- 体育祭
- 面談週間(～6月初め)

#### 6月

- 1・2年特別授業(ノーベルフォーラム+東工大 伊藤先生講演会)
- 自治会総会
- 学校説明会
- 保護者授業参観
- SGH公開授業・運営指導委員会
- 3年 GTEC
- 期末考査
- 教育実習



遠野ふるさと村にて

2日目昼から3日目昼にかけては、グループに分かれ、遠野での民泊体験を行いました。昔話で知られる遠野の自然の中で、東京では体験できない農作業や、ゆったりとした時間の流れを感じることができました。閉村式において、民泊先の皆さんとの別れを惜しむ光景が、充実した時間を過ごせたことを物語っていました。

「民泊では味噌と餅を作り、薪運びを体験し、農家の方に遠野の景色の素晴らしい場所に連れてってもらいました。遠野は、私にとってたくさんのことを学ぶことのできる素晴らしい場所であり、叶うのならばずっといたいと思った、そんな素敵な場所でした。」

「民泊が始まる前はどんな方にお世話になるのかとても不安でしたが、一緒に生活する中で家族のように思える瞬間がありました。農家の方との別れ際、とても寂しく感じました。民泊を経験したことで、『人と人とのつながり』というものを学ぶことができました。」「今回の修学旅行では様々な経験を積み、全員成長することができました。志賀林間学校での経験も活かし、3年生としてしっかり行動できたと思います。『思い出と知識の実を实らせよう』という目標通りたくさん学び、たくさん思い出を作った最高の修学旅行でした。」

事後学習では「現地を感じた岩手の良さ」「それをどのように発信するとよいか」についての意見をビジュアルレポートにまとめています。修学旅行を通して、生徒どうしの絆も深まった様子です。様々な経験や多くの方々との出会いを今後に生かして行ってほしいと思います。



震災学習ワークショップ

## 附属学校園からのお知らせ



# キャンパス点描

## Pasco × お茶の水女子大学 健康教室を開催しました

5月30日(土曜日)にPasco × お茶の水女子大学健康教室を開催し、当日は90名を超える多くの方にご来場いただきました。

お茶の水女子大学では、企業や行政、教育・研究機関との連携協力により、本学の教育研究活動の拡大・充実を図ることを目指しています。

今回はその活動の一環として、敷島製パン株式会社Pascoとの連携協力により、Pasco × お茶の水女子大学 健康教室「— 輝く明日のために —」を開催しました。

講演は、原田未生氏(敷島製パン株式会社開発本部マーケティング部製品企画グループ)、本田善一郎教授(保健管理センター所長)、室伏きみ子学長により行われました。



講演の様子

原田氏からは、主に国産小麦「ゆめちから」を用いたパンづくりの変遷や消費者の国産食品への意識に対する企業としての考えが述べられました。本田教授からは、ライフステージと病気、日々の生活における病気予防へのアドバイス、健康ロスという考えなどが紹介されました。また室伏学長からは、ご自身の研究で発見された環状ホスファチジン酸という物質が、美容(化粧品)や健康(関節疾患の治療薬となる可能性)のために活用できることについて、説明がなされました。

講演の後は活発な質疑応答が交わされ、参加者はご本人やご家族の方々の健康に関する見識を更に深めることができました。



質疑応答の様子

## お茶の水女子大学と産業技術総合研究所が 包括協定を締結しました



協定締結式の様子

お茶の水女子大学と産業技術総合研究所は3月27日(月曜日)に次世代の優秀な女性理系人材の育成を協力して行い、将来の「実践的イノベーション女性人材」の創出を目指すことを目的とした包括的協定を締結しました。協定調印式は本学の大学会議室で行われ、室伏学長と産業技術総合研究所の中鉢理事長より本協定の経緯とねらい、期待について説明がありました。それぞれの強みを活かして連携することにより、双方の研究開発の推進と、効率的かつ継続的な「実践的イノベーション人材」の輩出を目指します。



## みがかずば奨学金授与式及び 学部生成績優秀者奨学金授与式を挙

5月22日(月曜日)、平成29年度みがかずば奨学金授与式及び学部生成績優秀者奨学金授与式を挙

みがかずば奨学金は、お茶の水女子大学へ入学を希望する受験生に対して、入学後の生活の目処をたててもらふことを目的として平成23年度に設立されたものです。今年度は、入試前に出願して内定を得た者の中から、本学に入学を果たした20名の学部1年生が受賞となりました。

学部生成績優秀者奨学金は、学部3年に在籍する者のうち、1・2年次の成績、人物が特に優秀と認められた学生について、これまでの努力を評価し、今後一層の勉学を奨励することを目的として



みがかずば奨学金

平成23年度に設立されたものです。今年度は、学部1・2年次から引き続き在学する本学学部3年生(中途に休学期間がない者に限る)の中から、厳正なる審査の結果、25名の学生が受賞となりました。

式典では学内教職員臨席のもと、室伏学長から賞状を授与されました。

また、学長、遠藤桜蔭会理事、相田後援会長からお祝いと励ましの言葉がかけられ、各奨学金受賞者の中から1名ずつが、代表として謝辞と今後の学修・学生生活への意気込みについて挨拶を述べました。



学部生成績優秀者奨学金

## 桜蔭会研究奨励賞・大学院博士後期課程研究奨励賞・ 錦織チサ工奨学金授与式を挙

5月30日(火曜日)、平成29年度桜蔭会研究奨励賞・大学院博士後期課程研究奨励賞・錦織チサ工奨学金授与式を挙

桜蔭会研究奨励賞は、平成19年に本学同窓会の桜蔭会の助成により発足し、平成25年度入学者より一部制度を変更し入学前予約型奨学金となりました。本学学部在学者で、入試前に出願し、プレゼンテーション審査等を経て内定を得た者の中から大学院博士前期課程に進学した学生に贈られます。今年度は20名が受賞しました。

大学院博士後期課程研究奨励賞は、大学院生(博士後期課程)奨学金基金をもとに平成25年度から新たに設立した入学前予約型奨学金です。本学大学院博士前期課程在学者で、入試前に出願し、プレゼンテーション審査等を経て内定を得た者の中から大学院博士後期課程に進学した学生に贈られます。今年度は8名が受賞しました。

錦織チサ工奨学金は、平成27年度からの大学院博士後期課程入



桜蔭会研究奨励賞

学者を対象として新たに設立された予約型奨学金です。寄附者の錦織チサ工様は、昭和38年3月に本学文教育学専攻科を修了され、都立高校の国語科教諭をされておりました。本学博士後期課程に引き続き進学する学生の研究奨励に資するご意向により、奨学金を授与することとなりました。審査等は大学院博士後期課程研究奨励賞と同時にこなわれ、今年度は2名が受賞しました。

式典では学内教職員臨席のもと、室伏学長から賞状を授与されました。

また、学長及び青島桜蔭会副会長からお祝いと励ましの言葉がかけられ、各奨励賞及び奨学金受賞者の中から1名ずつが、代表として謝辞と今後の学修・学生生活への決意について挨拶を述べました。



博士後期課程研究奨励賞・錦織チサ工奨学金

# キャンパス点描





写真：写真部

お茶の水女子大学学报 第 253 号

▽発行日：2017 年 7 月 15 日

▽発行：国立大学法人お茶の水女子大学  
東京都文京区大塚 2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

企画戦略課広報企画担当

電話：03-5978-5105

FAX：03-5978-5545

E-mail：info@cc.ocha.ac.jp

URL：http://www.ocha.ac.jp/

本誌、お茶の水女子大学学报「GAZETTE」は、  
本学ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。